

令和6年度
北海道軟式野球連盟十勝支部
審判講習会資料



日 時 令和6年5月6日（月） 9時30分～15時00分

座学会場 帯広の森コミュニティセンター

実技会場 帯広の森平和球場

北海道軟式野球連盟十勝支部

指 導 心 得 (指導員研修会より)

1. いつも明るく紳士的に。
2. 折り目正しく、服装は清潔に。
3. わかりやすい言葉で、順序正しく、熱意をもって。
4. 長所を見出して、ほめることに心掛ける。
5. 質問に対しては、笑顔で親切に答える。
6. 答弁に自信のないものは、確認して回答する。
7. 指導する者として自覚を忘れず、健康に留意して、研修に励もう。

【重 点 目 標】(北海道軟式野球連盟審判技術委員会)

1. ストライクゾーンの確実な把握と一貫した判定
2. ポーズ・リード・リアクト手法の活用
 - ・ポーズ～打球が外野へ飛んだら(リードステップ)一瞬その場にとどまり、打球の行方を確認し状況を把握する。
 - ・リード～自分が追うべき打球か、打球はトラブルボールになるか、プレイはどう進みそうか、そして他の審判員の動きはどうかなどを予測・判断する。
 - ・リアクト～リードした結果に基づき、行動を開始する。
3. 良い角度と適切な距離
4. プレイは止まって見る
5. ジェスチャーは明確に、宣告は明瞭に
6. キレのあるジャッジの実践
7. ゲームのスピードアップとマナーアップの向上

実施内容

時 間 割		実 施 内 容
9:25~9:30	5	点 呼
9:30~9:40	10	開講式、主催者挨拶、支部長挨拶、役員及び講師紹介
9:40~10:10	30	2024年 野球規則改正について 2024年 競技者必携の改訂について その他
10:10~10:20	10	質疑応答
10:20~10:40	20	移 動
10:45~10:50	5	準備体操。ストレッチ
10:50~11:10	20	基本練習（ジェスチャー・コール） ゴ－・ストップ・コール
11:10~12:00	50	ストライクゾーンの説明 スロットスタンスの位置と姿勢 トラッキング（目の追従訓練） 投球判定（ソフトスからの投球判定）
12:00~12:50	50	休憩、昼食
12:50~13:50	60	準備体操 投球関連動作の確認 各塁における基本的・一般事項の説明
13:50~14:50	60	フォース及びタッグを主体とした塁上のプレイ ランダウンプレイ メカニクスのサイン交換について ※キャンプゲーム（ノック形式で練習）
14:50~15:00	10	閉講式、講評、理事長挨拶、解散

2023年12月15日

2024年度 野球規則改正

日本野球規則委員会

(1) 2.01を次のように改める。

① 第6段落を次のように改める。(下線部を改正)

本塁からバックストップまでの距離、塁線からファウルグラウンドにあるフェンス、スタンドまたはプレイの妨げになる施設までの距離は、60フィート(18.288メートル)以上を推奨する。

② 最終段落の末尾に次を加え、【注】を追加する。

ただし、内野の境目となるグラスラインは、投手板の中心から半径95フィート(28.955メートル)の距離とし、前後各1フィートについては許容される。しかし、投手板の中心から94フィート(28.651メートル)未満や96フィート(29.26メートル)を超える箇所があってはならない。

【注】 我が国では、内野の境目となるグラスラインまでの距離については、適用しない。

③ 【付記】を削除する。

(2) 2.03の最終段落を次のように改め(下線部を改正)、【注】を追加する。

キャンバスバッグはその中に柔らかい材料を詰めて作り、その大きさは18インチ(45.7センチ)平方、厚さは3インチ(7.6センチ)ないし5インチ(12.7センチ)である。

【注】 我が国では、一塁、二塁、三塁のキャンバスバッグの大きさは15インチ(38.1センチ)平方とする。

- (3) 2. 05の「各ベースラインから最短 25 フィート (7.62 メートル) 離れた場所に、」を削除する。
- (4) 3. 02 (a) 【注3】および同【軟式注】を削除する。
- (5) 5. 02 (c) 【注】を【注1】とし、その後、以下の本文、【原注】、ペナルティ、【注2】を追加する。

内野手の守備位置については、次のとおり規定する。

- (i) 投手が投手板に触れて、打者への投球動作および投球に関連する動作を開始するとき、4人の内野手は、内野の境目より前に、両足を完全に置いていなければならない。
- (ii) 投手が打者に対して投球するとき、4人の内野手のうち、2人ずつは二塁ベースの両側に分かれて、両足を位置した側に置いていなければならない。
- (iii) 二塁ベースの両側に分かれた2人の内野手は、投手がそのイニングの先頭打者に初球を投じるときから、そのイニングが完了するまで、他方の側の位置に入れ替わったり、移動したりできない。

ただし、守備側のプレーヤーが交代したとき（投手のみの交代は除く）は、いずれの内野手も他方の側の位置に入れ替わったり、移動してもかまわない。

イニングの途中で内野手として正規に出場したプレーヤーは、その交代後に投手が打者に投じるときから、そのイニングが完了するまで、他方の側の位置に入れ替わったり、移動したりできない（そのイニングで、その後再び別の交代があった場合は除く）。

【原注】 審判員は、内野手の守備位置に関する本項の目的として、投手が投球する前に打者がどこへ打つのかを予測して、二塁ベースのどちらかの側に3人以上の内野手が位置するのを防ぐことであることに留意しなければならない。いずれかの野手が本項を出し抜こうとしたと審判員が判断した場合、次のペナルティが適用される。

ペナルティ 守備側チームが本項に違反した場合、投手の投球にはボールが宣告され、ボールデッドとなる。

ただし、打者が安打、失策、四球、死球、その他で一塁に達し、しかも他の全走者が少なくとも1個の塁を進んだときには、規則違反とは関係なく、プレイは続けられる。もし、本項に違反した後に、他のプレイ（たとえば、犠牲フライ、犠牲バントなど）が

あった場合は、攻撃側の監督は、そのプレイが終わってからただちに、違反行為に対するペナルティの代わりに、そのプレイを生かす旨を球審に通告することができる。

【注2】 我が国では、本項後段の内野手の守備位置については、適用しない。

(6) 5. 10 (k) 後段を次のように改める。

プレーヤー、監督、コーチ、トレーナーおよび試合中にベンチやブルペンに入ることを許されたクラブ関係者は、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、その他許される理由以外で、競技場に出ることはできない。

(7) 7. 01 (b) の見出しを「延長回」とし、次のように改める。

① 本文を同 (1) とし、従来の (1)、(2) を (A)、(B) とする。

② 同 (2) および【注】を追加する。

(2) 9回が完了した後、10回以降は、走者二塁から、次のとおり始めることとする。

(A) 10回以降の延長回先頭打者（またはその打者の代打者）は、前の回からの継続打順とする。

(B) 延長回における二塁走者は、その回先頭打者の前の打順のプレーヤー（またはそのプレーヤーの代走者）とする。

たとえば、10回先頭打者が5番打者であれば、4番打者（またはその代走者）が二塁走者となる。ただし、先頭打者の前の打順のプレーヤーが投手であれば、その投手の前の打順のプレーヤーが代わりに二塁走者を務めることができる。

交代して退いた打者および走者は、規則 5.10 により、再び試合に出場することはできない。

(C) 投手の自責点を規則 9.16 により決定するために、延長回を開始するときの二塁走者は守備の失策により二塁に到達したようにみなされるが、チームまたはプレーヤーに失策は記録されない。公式記録員は、延長回における打者および二塁走者についても、規則 9.02 により記録をする。

(D) 延長回が始まるたびに、球審は二塁走者が適正であるかを確認するため、攻撃側チームの打順表を確認する。もし、その走者が適正でなければ、球審はただちに攻撃側チームの監督に知らせて、適正な二塁走者にさせる必要がある。また、プレイが開始された後に、審判員またはいずれかの監督が、走者が適正でないことに気付けば、その走者は適正な走者と入れ替わらなければならない、打順の誤りに起因したことにより、プレイを無効としない限りは、すべてのプレイは正規なものとなる。得点する前後に関係なく、適正でない走者に対するペナルティはない。

【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。

(8) 8.04 (a) の (試合終了後)「12 時間以内」、(b) 前段の「4 時間以内に」、(c) 前段の (その所属クラブ)「の代表者」、(c) 後段の「通告後 5 日以内に、」を削除する。

(9) 定義 4.6 「リーグプレジデント」(リーグ会長) を削除し、以下繰り上げる。

以上

2024年競技者必携改訂について

技術委員会

1. 投手の12秒および20秒ルールの取り扱い基準
 - ◎ 投手の12秒および20秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。
 - ◎ 20秒ルールの適用は、1度目及び2度目であっても3度目と同様に、「タイム」を宣告してボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。
2. スポーツマンシップの徹底
 - ◎ 野球にヤジは必要ありません
楽しい野球をするために、「尊重・勇気・覚悟」をもって取り組みましょう。
3. シートノック
 - ◎ シートノックを行うことのできない補助員もいることから、ベンチ前でのサイドノックを認める。
4. ベンチ前でのキャッチボール
 - ◎ 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からボール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールは認める。また、ブルペンの使用は今までどおり。
5. 学童部、少年部、女子大会の監督、コーチ
 - ◎ 20歳以上でなければならない。
6. 抗議権を有する者
 - ◎ 監督か当該プレーヤーのいずれか1名。
7. 指名打者の取り扱い
 - ◎ 連盟が主催する大会においては、指名打者ルールを使用することができる。ただし、学童部、少年部、女子大会は二刀流選手を採用しない。
※各大会共通 §3 指名打者の取り扱いについて 5.11(a)(b)参照
8. 試合中、控え選手がグラウンドでできること
 - (1) 攻守交代時にファウルグラウンドで外野方向へのランニングをすること。
 - (2) 攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし、球審の「プレイ」宣告までにはベンチに戻ることに。
 - (3) 攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。
9. 守備側のタイムの回数制限
 - ◎ 監督またはコーチ等が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内。延長戦は1イニングに1回。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。なお、5.10(2)は適用しない。
 - ◎ 投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前あるいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。

10. 没収試合の防止に向けて

- ◎ 過去の通達を再整理した上で、事例を加え、その対処方法を解説した 2023 年 12 月 BFJ 通知に全文差し替え。

11. 質疑応答

- 問答 19 【103P】、問答 42 【110P】、問答 187 【149P】、問答 52 【165P】
回答を見直した。

12. ヒット・バイ・ピッチ(死球)の判定

- 競技者必携 2023 以前には、「打者が投球を避けようとするのが条件である。(身体が打者席の捕手寄りではなく後方向に移動すること)」と記載されていたが、() 内下線部を削除する。

全軟野連発第 366-3 号
令和 5 年 12 月 20 日

各 位

公益財団法人 全日本軟式野球連盟
専務理事 小林三郎
技術委員長 元木三十志
(公印省略)

学童部のバットの使用制限について (通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、12月7日開催の令和5年第5回理事会にて、下記の通り取り扱いを改訂致しましたので、通知します。本件については、競技者の安全面を最優先した対応となりますので、ご対応いただきますようお願い致します。

以上、何卒よろしくお願い致します。

記

■学童部バットの使用制限

安全面を考慮し、学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を2025年より禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては、使用制限を行わない。

注) 少年用バットの使用制限は行いません。

以上

事務担当者：阿部・吉岡
03-3404-8831

都道府県支部
理事長 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟
専務理事 小林三郎

軟式野球用およびソフトボール用、捕手用マスク・プロテクター・レガーズの
商品統一化について（通知）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、ミズノ社からの提案を受け、本連盟では、ユーザーおよびメーカーの購入および製造・販売に係る経費負担軽減を目的に捕手用マスク・プロテクター・レガーズの軟式野球とソフトボール兼用商品の販売を承認することと致しました。詳細については下記の通りとなりますのでご確認いただきますようお願い致します。なお、捕手用マスクに関しては、SG 基準がありますが、軟式野球およびソフトボール双方の基準に適合する製品のみ、兼用商品として流通します。また、捕手用防具公認社の全てに対し、同様の通知を行いますことを申し添えます。

以上、何卒よろしくお願い致します。

記

■商品統一化について

1. 統一商品について

捕手用マスク、プロテクター、レガーズ（ヘルメットは対象外となります）

2. 公認マークについて



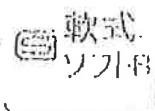
例)

*左図は、公認マークの表示の一例です。製品によっては、横並びで表示される等、表示配列が異なる場合があります。

3. SG 基準について

捕手用マスクは SG マークがつきますが、「軟式」「ソフト」両方の表記となります。

（例）軟式一般用と 3 号ゴムソフトボール用で使用可能



4. 既存製品の使用について

現在流通している既存の「JSBB 表示のみ」の製品の使用も可能です。

*捕手用マスクは、SG ラベルで用途表示されている競技でのみ使用可能ですが、本連盟では、捕手用マスクへの SG 基準義務付けは、2025 年から対応を行います。

令和 6 年 2 月 29 日

都道府県支部

理事長 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

専務理事 小山吉男

技術委員長 元木三十志

(公印省略)

グラブの取り扱いの改訂について (通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、1月31日開催の令和6年第1回理事会にて、下記の通り取り扱いを改訂いたしましたので、通知いたします。

ご確認いただき、各支部内でのチームならびに審判員等の関係者への周知徹底をお願いいたします。

以上、何卒よろしくお願いいたします。

記

■取り扱い改訂の理由について

以下、「競技運営ならびに競技者等の安全面に支障がない」と判断し、また、「軟式野球の競技性」から使用を認めることとする。

1. 投手用グラブの色制限に係る規制緩和について

公認野球規則「3.07 投手のグラブ」に以下の通り、規定されているが、本連盟では規制緩和を行うこととする。

● 公認野球規則 3.07 投手のグラブ

(a) 【注】アマチュア野球では、投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は1色でなければならない。

(b) 投手は、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけることはできない。

■改訂後の全軟連の取り扱い

・ 捕球面・背面・ウェブは2色まで可

ただし、白/グレー/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は禁止

・ ハミダシ、紐、指かけ、柄模様についても競技運営ならびに競技者等の安全面に支障がないと判断し、当連盟では制限をしないこととする。

■添付資料

グラブの取り扱い一覧表（令和6年2月現在）

以上

グラブの取り扱いについて

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

	投手	野手
本体カラー	捕球面・背面・ウェブは2色まで可 ただし、白/グレー/PANTONEの色基準 14番より薄い色の使用は禁止	制限なし
ハミダシ	制限なし	制限なし
ヘリ革	制限なし	制限なし
紐	制限なし	制限なし
縫い糸	制限なし	制限なし
指掛け	制限なし	制限なし
刺繍	氏名・背番号・チーム名などの刺繍糸の色、大きさ共に制限なし	制限なし
柄模様	制限なし	制限なし
商標	制限なし	制限なし
マーク類 ラベル	制限なし	制限なし

令和6年2月

<2024 北海道大会での重点事項>

北海道軟式野球連盟 審判技術委員会

【審判員として遵守すべき事項】

球審、塁審の姿勢

- 安定した姿勢、ジェスチャーの形をつくる。
- 見る姿勢をつくること。

アウト・セーフ・ストライク・ボールの明確なコール(発声)

- 誰が聞いても分かること。
- プレイにマッチした大きな声と大きなジェスチャー。

審判員の役割

ゲームのスピードアップ

安定したストライクゾーンを保つ

打球に対する判断を早く

ポーズ・リード・リアクト

角度と距離

野手の邪魔にならない最も良い位置で余裕を持って見たままを判定、

宣告(お知らせ)をする

審判(野球)を楽しくやりましょう!

必ず自己反省を忘れずに!

【2018年からの取組事項】

○審判員のサイン交換

サイン交換のタイミング 確認!

○責任審判制度の導入

4人の競技場内の審判員及び控え審判員も含めた責任分担

協議された事項の説明は、責任審判員が行うこと

○審判用具の点検

2022年から、マスクはS・Gマークの付いたものを使用すること(義務化)としていたが、製品の流通が十分でないところから義務付けを緩和している。(2025年から義務化の予定) ※指導心得にもあるように、帽子が色あせている、ズボンがしわだらけといったことのないように!

新たに

○審判ミーティングの充実

- ・競技場の確認事項
- ・天候や大会期間中における留意事項の確認
- ・判定範囲の確認
- ・審判員間の約束事の確認、疑問点の解消

○若手審判員のサポート・育成

- ・審判員としての活用(支部予選や支部大会→全道大会)や疑問点の解消
- ・試合での配置におけるサポート体制